

2021 年度事業報告書

(2021 年 5 月 1 日から 2022 年 4 月 30 日まで)

一般社団法人つくろい東京ファンド

当法人の目的を達成するために、関連諸団体・個人と連携をとりつつ、次のとおり事業を実施した。

1. 個室シェルターの運営と路上生活者支援活動

- 1) 他の生活困窮者支援団体等と連携をしながら、住まいのない生活困窮者のための個室シェルター「つくろいハウス」(中野区、定員 6 名) など個室シェルター (短期) 22 室、ハウジングファースト住宅 (長期) 6 室を運営している。
- 2) 必要に応じて、「つくろいハウス」入居者及び退所者 (約 90 名) への安否確認、福祉・住宅等の相談及び食料支援を実施し、他の生活困窮者支援団体等と連携をしながら入居者や退所者が安定した生活をおくれるための支援をおこなった。
- 3) 中野区内の路上生活者を支援する夜回りを月 1 回、実施した。また、認定 NPO 法人ビッグイシュー基金と連携をした都内各地の夜回りも月 1 回、実施した。

2. 「カフェ潮の路」及び「潮路書房」の運営

- 1) ホームレス経験者の仕事づくり、居場所づくりを目的とする「カフェ潮の路」、古書店「潮路書房」は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、2021 年 4 月より週 1 回 (毎週木曜日 12~17 時)、お弁当等のテイクアウト販売という形で一部営業を再開した。2021 年 8 月から再度、完全休業としたが、2022 年 4 月よりコーヒースタンドの営業を再開した。

3. シェアハウス「ハナミズキの家」の運営及び「ことといこども食堂」事業

- 1) 墨田区内の若者向けシェアハウス「ハナミズキの家」(定員 3 名) において、東京の住宅費の高さに悩む若者の受け入れを継続しておこなった。
- 2) 「ハナミズキの家」のキッチンスペースを活用した「ことといこども食堂」は、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、2020 年 2 月 27 日より休業している。

4. 他団体と連携した個室シェルターの運営や生活支援

NPO 法人 TENOHASI と連携して、個室シェルター (21 室) 及びハウジングファースト住宅 (2 室) の計 23 室を運営し、住まいのない生活困窮者の受け入れを継続しておこなっている。

「LGBT ハウジングファーストを考える会・東京」と連携して「LGBT 支援ハウス」(2 室) を運営している。

NPO 法人北関東医療相談会と連携して、住まいを喪失した外国人のシェルターへの受け入れや生活全般にわたる支援もおこなっている。

5. 東京アンブレラ基金及び「せかいビバーク」の運営

住居喪失者の緊急宿泊支援のため、都内のさまざまな団体と連携をして、「東京アンブレラ基金」を運営している。同基金では、クラウドファンディングで集まった寄付金をもとに、協働団体が実施した緊急宿泊支援の費用を補助する事業をおこなっている。

また 2021 年 10 月より、寮やネットカフェなどから出ざるをえなくなった人が東京都内各所で「緊急お助けパック」を受け取り、一泊のちに公的支援機関へつながることを可能とする「せかいビバーク」を試験運用している。

6. つながる電話プロジェクト

コロナ禍での緊急支援活動の経験により、多くの生活困窮者が「音声通話可能な携帯電話を失っている」ことが原因となり、住まいや仕事にアクセスできない状況に陥っていることが判明した。この状況を解決するため、NPO 法人ピッコラーレおよび合同会社合同屋と協働し、本人負担ゼロで通話可能な電話番号を付与した携帯電話を無償貸与する支援スキーム「つながる電話プロジェクト」を 2020 年 7 月に開始し、現在も運営している。2022 年 4 月末までに全国の約 280 世帯に利用していただいている。

7. 生活保護支援申請システム「フミダン」の運営及び扶養照会問題への取り組み

生活保護の窓口における「水際作戦」をなくすため、生活保護の申請支援を行うウェブサービス「フミダン」を運営し、「フミダン」を利用して生活保護を申請した人へのアフターフォローも行っている。

2021 年 4 月より生活保護の扶養照会の運用が改善されたことを受けて、生活保護問題対策全国会議と共同で「扶養照会に関する申出書」と「添付シート」のひな形をウェブサイトにアップロードし、必要としている人に活用していただいている。生活保護の申請者や申請を検討している人の扶養照会に関する相談も随時、受け付けている。

9. 広報

ウェブサイト及び SNS (Twitter、Facebook) による発信をおこなった。

10. ファンドレイジング

当法人の事業資金を調達するため、クレジットカード等を通じた寄附金の募集等をおこなった。

【補足資料1】2022 年 4 月末段階の借上げ物件の状況

つくろい東京ファンド単独運営：個室シェルター22室、ハウジングファースト住宅6室（シェアハウス3室含む）。計28室。

※個室シェルターは、中野区沼袋周辺に15室。練馬区など7室。2022年4月末時点でのシェルター利用者は、21人。うち、生活保護利用14人、仮放免中の外国人6人となっている。

LGBT 支援ハウスとの協働：個室シェルター2 室。

NPO 法人 TENOHASI との協働：個室シェルター21 室、ハウジングファースト住宅 2 室。計 23 室。

総計：個室シェルター45 室、ハウジングファースト住宅 8 室。計 53 室。

【補足資料2】2021 年 4 月から 2022 年 3 月までのシェルター利用実績

単独運営の個室シェルター利用実績：利用者計 51 人（入居中 16 人、退去済 35 人）。年代は 10～70 代。

退去者 35 人中、アパート 26 人、行方不明 5 人、死去 1 人、その他 3 人。

アパート移行後もフォロー中の人は約 70 人。